



学生のアイデア  匠の技



公益財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター
www.fdc138.com/fashion/seminar/syo/

平成28年2月発行

学生のアイデア



匠の技



公益財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター



shokobo

shokobo

shokobo

翔工房とは

- アパレル製品を開発するためには、抽象的なアイデアやイメージを、テキスタイルやガーメントという具体的な製品に落とし込むという企画の力が必要となります。
- 翔工房は、ファッション業界の各方面での活躍を期待される学生に対して、こうした企画力を早い段階から醸成する目的で創設されました。ファッション業界の各方面での活躍を期待される学生にとって、創造するアイデア・イメージから実際の製品になるまでの一つの現場や工程を目で見て、肌で触れることは非常に貴重な経験であり、将来の糧となります。
- 学生の斬新なアイデアを基に、学生と経験豊富な「匠の技」をもつ技術者とのコラボレーションによって、この世に一つしかないテキスタイルが生み出されます。
- 果たしてこの素材から、学生自身はどのようなガーメントを製作するのでしょうか...
- 若者は未来の尾州を支える要諦です。
- FDCは翔工房を通じて、ファッション業界、何より尾州産地の将来のために、可能性に満ちた才知溢れる種をまきます。



書類審査



第1回合同ミーティング



各工場見学



翔工房の流れ

ファッション産業を担う学生



匠ネットワーク講師のマンツーマン指導



学生のアイデア × 匠の技

- 学生がイメージを基に、思い思いのガーメントを製作します。翔工房では、その素材となるテキスタイルの製作について、その糸から完成までの工程を、卓越した技術と能力を兼ね備えた「匠ネットワーク」のメンバーを講師として招聘し支援していきます。



第2回合同ミーティング

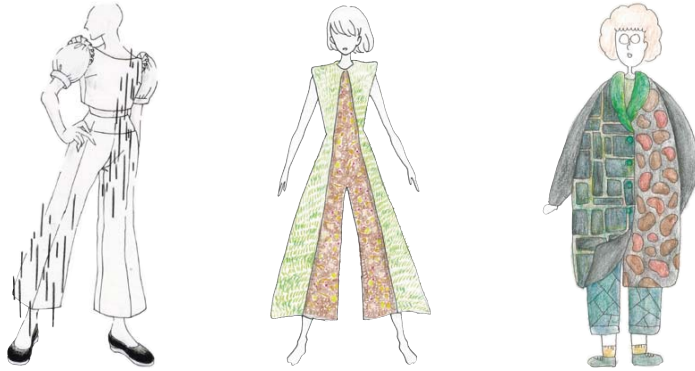
平成27年度 スケジュール

4月	学生募集(締切5月11日)
5月 15日	匠講師による書類審査(一次)
6月 11日	プレゼンテーション(二次)
6月 中旬	参加学生を決定、学校へ通知
6月 26日	第1回合同ミーティング (座学研修・設備見学・匠講師との素材製作開始)
7月~10月	素材製作(4~6回程度)
10月 22日	第2回合同ミーティング(完成素材の求評)
11月~12月	学生による衣装製作
1月 15日	第3回合同ミーティング(完成衣装の求評)
2月24~26日	総合展「THE 尾州」でガーメントを常設展示
2月 25日	同展示会場内での作品発表会

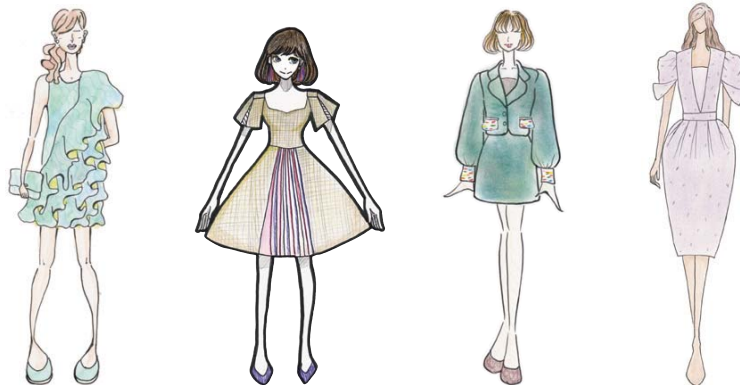
Group 1



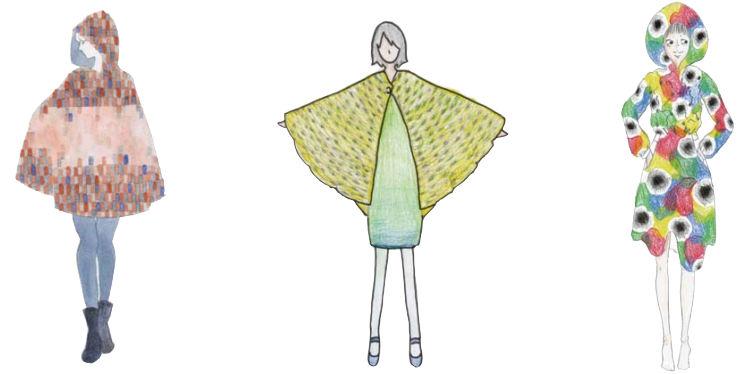
Group 2



Group 3



Group 4



Group 5



Group 6



もくじ

学生氏名 | 学校名 | 頁 |

Group 1

■ 平濱あかり	広島市立大学大学院	6
■ 渡瀬あゆみ	川島テキスタイルスクール	7
■ 後藤 真希	明美文化服装専門学校	8
■ 新山 紗希	中部ファッション専門学校	9
■ 片山せいら	京都造形芸術大学	10

Group 2

■ 深谷 美咲	名古屋ファッションビューティー専門学校	11
■ 弥 祥世	名古屋芸術大学	12
■ 野口 真生	京都嵯峨芸術大学	13

Group 3

■ 山田 美咲	中部ファッション専門学校	14
■ 下東 桃子	桐山女学園大学	15
■ 木田 楓	愛知文化服装専門学校	16
■ 小林 愛実	名古屋ファッションビューティー専門学校	17

Group 4

■ 渡井あかり	川島テキスタイルスクール	18
■ 菅原 美里	名古屋芸術大学	19
■ 後藤 なつ希	神戸芸術工科大学	20

Group 5

■ 澤村 果歩	共立女子大学	21
■ 加藤 速香	桐山女学園大学	22
■ 蔭山 弥生	中部ファッション専門学校	23
■ 松永 駿	名古屋ファッション専門学校	24
■ 任 砂耶	神戸芸術工科大学	25

Group 6

■ 浅野 秋江	岐阜市立女子短期大学	26
■ 神谷 侑希	名古屋モード学園	27
■ 小林 留奈	名古屋モード学園	28
■ 坂本 咲季	大阪モード学園	29

shokobo

平濱 あかり (広島市立大学大学院) × 渥美 充和

タイトル

city mosaic

F.S



製作にあたって

イメージは都市です。このワンピースは上半身は都市の実像、下のスカート部分は水面にうつり込んだ都市というイメージです。都市の明かりが水にうつるのでまたキラキラと違った表情を見せることから、一枚の布でも表裏で別の印象を受ける布を利用できないかと考えています。もしくは上半身の布、下半身の布で同じ糸を使用し、異なった織り方することで、織りによる表現の違いを見せたいです。スカートのフレアがゆらゆらと軽やかに揺れて欲しいので、うす手の生地仕上があれば、と思います。

B.S

Image



水面にうつる都市のイメージで
スカートはフレア

当初のイメージと製作した素材との比較

当初は、街なみの風景を組織と色系のみで表現する予定でしたが、ビルが乱立したランダムな様子を表すためにジャガード織へと変更になりました。そのため、より風景がわかりやすくおもしろくなったと思います。生地厚はドレスにほどよい思い通りの厚みで、糸にベビーアルパカも入っているためやわらかい仕上がりとなっておりとてもいい生地になりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

工場の見学や講師の指導を受けていると、ウールとは加工によって様々な変身をする素材と知りました。今回も織り上げた直後の生地からカット、洗い、縮絨などを行うことでどんなイメージの生地へと近づいていきました。苦労した点はカットの加工を講師に手伝っていただき手作業で行ったことです。

●協力／(有)アサヒ紋工所、茶利染工(株)、東和毛織(株)、万平(株)、三星染整(株)、渡六毛織(株) (順不同)

W94%、Alp6%

Group 1

タイトル 【萌黄よせ】

F.S



製作にあたって

緑に囲まれてのんびりしたい時に訪れる万博記念公園は、広大な敷地に多くの木が植えられていて、たくさんの人でにぎわっています。公園内にあるタワーに上ると、植えられている木々を上から眺めることができ、それぞれに異なる緑が一面に広がる景色が、強く印象に残りました。モザイクのような、緑を取り合わせた風景を、いろいろなお菓子を集めながら統一感のある「吹き寄せ」のような、まとまりながらも一様でない緑を表現し、公園に行ったときのリラックスした気持ちを、身につけたときに感じられるような服を作りたいと考えています。細く、毛足の長いウールの糸を使って、柔らかな生地を作りたいです。また、和菓子「つつじ」のような、樹冠のもこもことした感じを表現したいので、べったりとした生地ではなく、起毛させて陰影をつけたいと考えています。上半身の緑色の部分も一色ではなく、緑色に濃淡をつけたいです。裾のモザイク部分は、青緑色から黄色まで、さまざまな色で変化をつけたいと考えています。

Image

B.S



当初のイメージと製作した素材との比較

一番表現したかったのは、さまざまな緑を使ってたくさんの樹が集まった感じを出すことでしたが、紺糸を使って表現できたと思います。もこもことした質感や柔らかな生地もイメージ通りでした。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

普段学んでいる手織りとは異なり、選択肢が多く、迷うことも多かったです。少しの違いで大きく変わるということを体験し、細部を大切にすることの重要性を学びました。イメージを伝えるため、言葉だけではなく質感などが近いものを探すのがむずかしかったのですが勉強になりました。

●協力／岩安毛織、川出毛織工場、茶仙染工(株) (順不同)

N96%、Alp2%、N2%

タイトル 【SEA】

F.S



製作にあたって

素材のベースはウエーブのボーダーで海の波をイメージ。ウエーブは幅の広さでグラデーションになっており、海の深さを表現。素材は、キャンブリックのような織りの素材で織りをゆがませてウエーブを作る。イルカの柄は刺繍。

Image

B.S



↑ 生地の原



当初のイメージと製作した素材との比較

イメージに近い素材になったと思います。ウエーブのうねりはもう少し幅の広いうねりを想像していましたが幅の狭いうねりでしか製作できませんでした。しかし、完成した素材は、全体で見ると想像した通りの素材でした。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

ベースはウエーブのボーダー柄なので製作前はあまり難しくないだろうと思っていましたが、ウエーブの間隔をグラデーションにするには、その間隔ごとに織りを変えるので大変な作業と知りました。また、このデザインで縦地の目は難しいので作品では横地の目で使用する生地になりました。イルカとかめの柄は手で刺繍しました。

●協力／旭化成アドバンス(株)、豊田燃糸(株)、四葉織房(有)、三星染整(株)、渡六毛織(株) (順不同)

C57%、Cu43%

タイトル
【擬態】

F.S



製作にあたって

テーマは「擬態」です。擬態とは敵の目を欺くための技術で、自然界では他のものに様子や姿を似せることで攻撃や自衛を行います。これから一人で生きていくために、自分を守る方法とは何かあるかを考えました。そこで、昔から私の住む環境にいた虫たちをヒントにしました。彼らは生き延びるために周りの生物や自然に擬態します。その中でも木の樹皮にまぎれこむ虫の姿に感銘を受け、服の素材も樹皮のようにすることで自分を守る服を考えました。樹皮が厚いところと薄いところがある表現をしたいので、立体感のある仕上げにしたいと思っています。そして樹皮にはウメノキコケが付着していることが多いので、こちらがついているような表現をしたいと思っており、樹皮の素材に緯糸を差し込むようにしたいと考えています。

Image



B.S

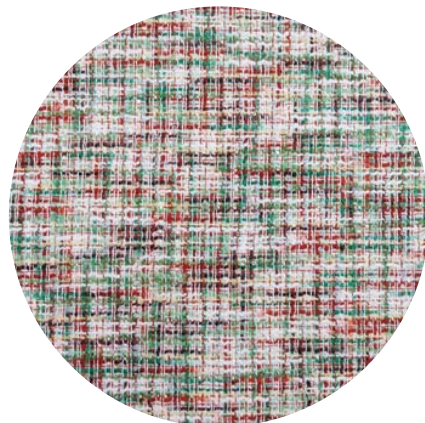


当初のイメージと製作した素材との比較

擬態した生物のいる木肌を表現しようとおもっていたので、太い糸を使い凹凸のある素材を考えていました。しかし、プルゾンアイテムに向く、もう少しフラットな素材にしました。スラブヤーンやルーブヤーンを使用したので、私のほしかった凹凸感を残すことができ、仕上げで木肌の持つ力さとした質感に仕上がりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

スラブヤーンやルーブヤーンをかすり染することで色数が増え、実際の木にあるような微妙な色の変化を表現することができました。そして、組み合わせる抑え糸の選択一つで雰囲気がガラッと変わることがわかりました。織りで表現するためには多くの工程を考えて製作していかなければならないことを学ぶことができました。



W98%、N2%

タイトル
【モザイクの連続】

F.S



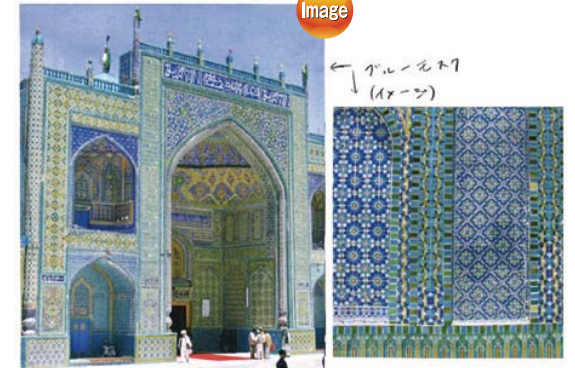
B.S



製作にあたって

アフガニスタンにある、ブルーモスクという寺院からインスピレーションを受けました。モザイク文様の小さなタイルが組み合わさってできる圧倒的な空間は、織物の無限に広がるパターンと共通した芸術性を持っていると思います。織物の持つ連続性という特徴を生かして、ブルーモスクの思わずクラッとするような文様の世界を表現したいと思います。素材は、尾州産地特有のウールの糸を使用し、基本となるベースの織り生地に、様々な色の糸を規則的に織り込む事で、モザイク文様が表現できるのではないかと考えています。コートに仕立てるための生地を作りたいです。

Image

←ブルーモスク
(イラン)

当初のイメージと製作した素材との比較

生地の厚みや風合い、一番表現したかったモザイク柄のおもしろさを、イメージ通りに上げることができた。色合いについては、もっと鮮やかな色をイメージしていたが、匠の方のアドバイスのもと、着用した際に映えるシックな色合いにした。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

服として仕立てた時に、どのように見えるかということ意識しながら、色合い、糸選び、織密度、すべての工程でイメージに合うものを厳選してゆく必要があることを学んだ。また、一枚の生地を製作するのに本当にたくさんの人の手と工程を経ていることを知った。



W88%、An9%、N2%、Pe1%

●協力／(有)アサヒ紋工所、中隆毛織(株)、(有)レナード (順不同)

●協力／川出毛織工場、(株)ソトー、茶仙染工(株) (順不同)

タイトル
【流れ】

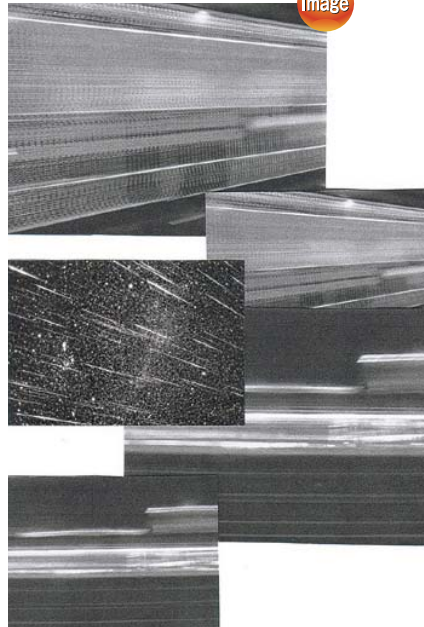
F.S



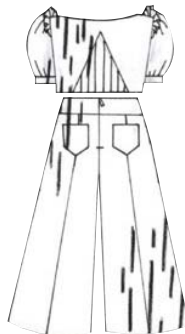
製作にあたって

地下鉄の窓ガラスに映る自分の姿を見て、まるで自分の上を光が走っているような様子に美しさを感じてデザインに落とし込みたいと思いました。ベースとなる素材は厚みのある生地に、光の走る様子を真っ黒な線で表現したいです。線は5mm程度の太さで、全体的ではなくポイントに浮き出る加工を施してほしいです。一方で、窓ガラスの透明感と冷たさを表現したいので、袖は張りのあるシースルー素材を希望します。“地下鉄の窓ガラスに映る自分の姿”なので、白と黒を使用したいと思います。

Image



B.S



当初のイメージと製作した素材との比較

当初はもっと肉厚の素材の予定でしたが薄めの素材になりました。ですが、当初考えていたものより、縦の黒の線の雰囲気がとっても気に入るモノになりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

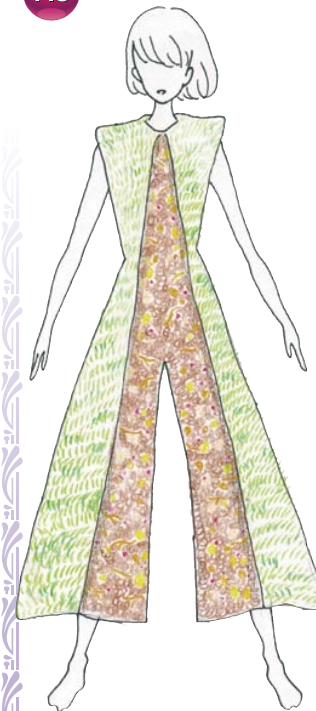
織りで厚みを表現する難しさとランダムに線を出すことが出来ない事に苦労しました。工場見学等で学び、尾州産地の魅力に気づき、大変興味を持ちました。

●協力／一陽染工(株)、(株)今覧、東亜紡織(株)、ビート企画、宏進毛織、ワコートク染(株) (順不同)

(無地)W100%、(柄)W99%、N1%

タイトル
【大地を踏みしめて】

F.S



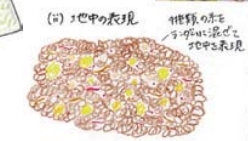
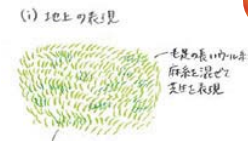
製作にあたって

今まさに私たちは、そこに立ち、歩き続けている。在って当たり前の存在だけど、そこから生命は生まれた。そんな私たちになくてはならない存在である大地を生地で表現したいと思い、「大地を踏みしめて」というテーマにデザインを考えました。生地は、地上と地中を表現したいので2つの生地を組み合わせたいです。地上の表現は、草や芝生のようなデザインを考えています。素材はウールと麻を混ぜ、ウールの種類や織り方で立体感を出して、足で踏んだ時にザクザクと音をたてるような生地にしたいです。地中の表現は、土や石、植物の根やミミズなどが入り混じったデザインを考えています。素材はウール系のネップやリングヤーンなどボコボコした糸で土や石ころを表現し、毛足の長い糸で根の表現をしたいです。

Image



B.S



当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージは、芝生と土でウール素材を使うように考えていましたが、シーズンがSSということで、あまり厚みを持たせず、扱う糸は共通のものにし、色味の違いで、芝生と土の違いを表現することになりました。糸の色味や織り上がりは、イメージ通りに仕上がりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

製作するにあたって、そのシーズンに合わせた糸、コストなど制約がある中で、どれだけイメージに近づけていくかということが難しく苦労しました。匠の水谷さんのアドバイスにより、自分の中のイメージに近づけることができたので、最終的に理想の生地に仕上がりました。

●協力／一陽染工(株)、(株)今覧、東亜紡織(株)、ビート企画、宏進毛織、ワコートク染(株) (順不同)

W69%、C17%、R9%、N5%

